

I はじめに

令和2年第1回伊達市議会定例会の開会にあたり、市政執行に臨む私の所信の一端を申し上げます。

私は、昨年4月の統一地方選挙において、6期目の市政を担うことになり、市民の皆さまの市政に対する大きな期待と責任の重大さを実感しております。

5期目の4年間、「第六次伊達市総合計画の着実な展開」、「未来を担う人材の育成・確保」及び「経営的な視点に立った行政改革の推進」を大きな柱として掲げ、市民の皆さまがこのまちで暮らしてよかったと心から思えるまちづくりに、全力で取り組んでまいりました。

この間、地方都市ではこれまで経験したことのない急速な人口減少と少子高齢化が進み、地域経済の縮小や地域コミュニティの担い手不足などが懸念される中において、地方は何をすべきかを常に考え、「将来にわたって持続可能なまちづくり」をテーマに市政運営を行ってまいりました。

依然として地方を取り巻く環境は厳しく、好転する兆しが見えない中であってもこのまちの将来を考えたとき、私たちのこのまちはまだまだ可能性を秘めていると感じ、困難な課題が山積する状況下で策定した、「第7次伊達市総合計画」の重点施策である「健やか・安心」、「育み」及び「活躍」に基づく事業をこの1年間遂行してまいりました。

さて、我が国においては、大胆な経済政策を行った結果、企業の稼ぐ力が高まり、緩やかな景気回復が続いていると言われておりますが、深刻な労働力不足や消費税率の引き上げに伴う国民生活への負担増加、さらには度重なる自然災害の発生は地域経済にも大きな

影響を及ぼし、安定的な生活への不安要素を抱えております。

本市においても消費及び経済規模の縮小や税収等の減少がまちの活力の低下に繋がりがねない喫緊の問題であると認識しており、社会の潮流を見据えた対応が求められている状況にあります。

今後も厳しい時代の停滞が予想される中、活力を失わずに希望が持てるまちづくりを進めていくためには、「まちづくりの自分ごと化」の意識を醸成し、市民の皆さまと行政が役割分担を図りながら、さらに連携を深めていくことが重要になってくると感じているところであります。

昨年は、伊達邦成公が明治政府より有珠郡開拓を命ぜられてから150年の大きな節目でありました。

先人の偉業やこれまで積み重ねてきた本市の誇りある歴史を振り返り、まちの魅力を広く発信するため、記念式典をはじめ花火ショーの開催や伊達・大滝ロングトレイルの開設など、市民の記憶に残る市民参加型のイベントを多数行い、開拓者の精神を思い起こしながら、記念すべき1年を祝うことができました。

多くの市民が一丸となってアイデアを生みだし、工夫を凝らしながらつくり上げていく様子を目の当たりにし、このまちの将来への期待感がさらに高まったところであります。

これからも、あらゆる年代、性別及び境遇の人たちが活躍することができ、多様な価値観が尊重され、市民力が発揮される環境づくりに努めてまいります。

今後の経済や社会動向の変化を予測することは非常に困難ではありますが、市民生活にもっとも身近な基礎自治体としての役割を果たし、「豊かさを感じられる市民幸福度最高のまち」の実現に向けて新年度の市政の舵取りをしてまいりますので、市議会議員並びに市民の皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。